

PC-6-Ⅲ-02	<b>化粧品科学</b>	第6学年	前期 選択	1単位
担当者	平尾 哲二			
一般目標 (GIO)	化粧品を支える科学的知識を学び、その基礎を理解し説明できることを目標とする。			
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化粧品の役割、法律における定義を理解し説明できる。</li> <li>・化粧品との関わりの観点から皮膚科学の基礎を理解し説明できる。</li> <li>・化粧品に求められる品質や特性について理解し説明できる。</li> </ul>			
受講心得・ 準備学習等	化粧品は健やかさを保ち美しく彩るための身近な消費財であるが、薬学など広範な学問領域が基盤となっている。単なる興味だけでなく、化粧品を支える法規や科学について学ぶ姿勢で受講すること。			
事後学習・ 復習等	各回の講義内容を十分に復習し、レポートを作成・提出すること。その際に、参考書なども参照し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深めること。			
オフィスアワー	原則として、講義後に短時間設ける。			

### 授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義
回	項目	内容
1	化粧品概論	化粧品の定義、分類、医薬品との違い
2	皮膚の構造と機能(1)	皮膚の基本構造と役割、角層、表皮、肌トラブル
3	皮膚の構造と機能(2)	真皮、皮膚付属器、肌トラブル
4	スキンケア化粧品	分類、製剤技術
5	紫外線ケア化粧品	紫外線が皮膚に及ぼす影響、SPF、PA、光老化
6	医薬部外品	色素沈着、美白化粧品
7	毛髪の構造と機能	毛髪の構造と機能、頭髮の性質
8	ヘアケア化粧品	シャンプー、リンス、パーマ、染毛、育毛
9	化粧品の品質(1)	安全性、安定性
10	化粧品の品質(2)	使用性、有用性
11	化粧品開発と市場	化粧品業界概説、関連団体
12	総括	全体のまとめ

成績評価 の方法	コメントシート(毎回の講義時に提出)20%、レポート(講義内容の復習など)80%により評価する。定期試験は実施しない。
成績評価 の基準	100点満点のうち60点以上を合格とする。ただし、授業回数数の3分の1以上を欠席した場合には、不合格とする。
教科書	特に指定しない。
参考書 など	① 平尾哲二著「医師・医療スタッフのための化粧品ハンドブック」中外医学社 2016年12月発行 ② 田上八朗、杉林堅次、能崎章輔、宿崎幸一、神田吉弘監修「化粧品科学ガイド 第2版」フレグランスジャーナル社 2010年6月発行 ③ 福井寛著「トコトンやさしい化粧品の本」日刊工業新聞社 2009年10月発行